
帰国生入試に関するQ&A

《入試日程・募集人員について》

※入試要項をご覧ください。

《出願資格について》

質問1 入試要項には「出願者本人が単独で海外留学をしていた場合、帰国生入試の出願資格はない」と書いてありますが、本人の留学に家族が同行すれば出願が認められますか。

回答1 認められません。帰国生入試は、両親の仕事の都合など、本人の意思と関係なく海外で生活しなくてはならなくなった生徒を対象とする入試です。

《出願書類について》

➤ 提出する書類について

質問1 出願書類にはどのようなものがありますか。

回答1 帰国生入試の出願には次の書類が必要です。

- (1)国内の中学校または日本人学校を卒業・卒業見込みの者は、中学校が作成する調査書
 - (2)海外の現地校・インターナショナル校等に在籍した者は、中学校相当期間にかかる全ての成績証明書(学校長の公印または署名のあるもの)
 - (3)離日前に国内の中学校に在籍した者は、その中学校の成績証明書
 - (4)帰国生調査票(受験生本人が記入)
 - (5)海外在留証明書(在留期間、在留地名を記載。所属機関代表者の公印が必要)
- ※(1)・(4)・(5)は本校指定の用紙。

➤ 成績証明書について

質問1 現地校の場合、成績証明書は何学年のものが必要ですか。

回答1 日本の中学校相当の年齢の時期に関わるもの(満12歳の4月以降のもの)すべてを提出してください。

質問2 成績証明書はコピーでもよいですか。

回答2 コピーそのものは認めておりませんが、コピーに「原本と相違ない」という出身校の証明(校長もしくはそれに相当する方のサインや公印)があれば構いません。証明書が厳封されていて中身が確認できない場合は、そのままご提出ください。

質問3 帰国の際、成績証明書の原本を1部しか発行してもらえず、今からコピーにサインや公印をもらうことも難しいのですが、どうしたらよいですか。

回答3 まず出願時には、成績証明書のコピーをお送りください。コピーであることを付箋に書き、貼り付けて提出してください。後日、来校いただき、オリジナルの成績証明書原本と照合をさせていただきます。

質問4 現地校では、紙での成績証明書を発行していない(コンピューターだけで通知される)場合、どうしたらよいですか

回答4 まずは出願時に、プリントアウトしたトランスクリプトをお送りください。自分でプリントアウトしたものであることを付箋に書き、貼り付けて提出してください。そして、現地校に対し、オリジナルのトランスクリプトをメール添付で青山学院高等部帰国生入試担当者宛にお送り願いたい旨、依頼しておいてください。送り先のメールアドレスは、出願後にお知らせいたします。

質問5 日本人学校の場合は、現地での成績証明書は必要ですか。

回答5 海外日本人学校から直接受験される場合は調査書の提出が必要です。現在日本の中学校に通っていて、日本人学校での成績を調査書に転記してもらえる場合は、成績証明書は必要ありません。転記してもらえるかどうかは中学校にご確認ください。

質問6 厳封と書いてある提出書類の封があいている場合はどうなりますか。

回答6 提出書類がオリジナルであることがわかる形であれば大丈夫です。コピーの場合は、校長もしくはそれに相当する方のサインをもらってください。

➤ 帰国生調査票について

質問1 帰国生調査票に海外での在学期間を記す欄がありますが、ここには何歳から何歳までの在学期間を記せばよいですか。

回答1 日本の小学校1年生就学年齢以降から現在までのすべての海外での就学履歴を記入してください。その際、在住地が同じでも、学校が変わった場合や、一時帰国が6か月以上にわたる場合は欄をあらためてご記入ください。

➤ 海外在留証明書について

質問1 海外在留証明書の書式について詳しく教えてください。

回答1 海外在留証明書は、保護者の所属機関に現地での滞在期間を証明してもらうための書類です。保護者と志願者の海外滞在期間をご記入いただき、所属機関(会社等)の公印等が必要になります。用紙(PDF)は本校ウェブサイトにてダウンロードが可能です。

《面接について》

質問1 面接はどのような形式で行われますか。

回答1 受験者2～3名のグループ面接です。面接委員は3名で、時間は20分程度です。面接の質問は基本的には日本語で行われますが、英語圏の現地校やインターナショナル校出身者には英語による質問があります。ただし、英語力を問うことが目的の面接ではありません。

《適性検査について》

質問1 適性検査の時間や解答の形式を教えてください。

回答1 国語(古典を除く)・数学・英語(リスニングなし)の3科目全体で60分のマークシート式テストです。国語と数学に関しては、本校における学習に必要な適性と中学校課程修了程度の基礎学力を確かめるためのもので、英語のみ、少々難易度の高いものとなっています。内容は公表していません。教科ごとに合格最低点(非公表)が設けられています。

《合否・補欠合格について》

質問1 英検の資格を持っていると、合格判定で優遇されますか。

回答1 優遇はされません。

質問2 合格人数は募集人員ちょうどですか。また、補欠合格はどれくらい出しますか。

回答2 合格者は募集人員よりも多く発表しています。補欠合格は出していません。

《入学手続きについて》

- 入学金・施設設備料の延納について

質問1 入学金・施設設備料は延納できますか。また、延納の期限はいつですか。

回答1 入学金は延納できませんが、施設設備料は延納可能です。延納する場合は、納付延納願を提出する必要があります。詳細は、入学手続き時に配布する書類をご確認ください。

《その他》

- 推薦入試と帰国生入試について

質問1 推薦入試と帰国生入試はどちらが入りやすいですか。

回答1 入試方式の特徴が異なりますし、その年の受験者数・受験生の魅力などによって左右されるので、どちらが入りやすいかはわかりません。自分の魅力をより発揮できると思う入試方式で受験してください。

➤ 一般入試との併願について

質問1 一般入試にも出願できますか。また、出願した際には優遇されますか。

回答1 一般入試にも出願できます。優遇はされません。

➤ 入学後の学校生活について

質問1 帰国生の入学後のクラス配置や帰国生に対する授業体制は、他の生徒と異なっていますか。

回答1 本校では、お互いに良い刺激を与え合うことができるように、中等部からの内部進学者、一般・推薦・帰国生入試合格者を混合したクラス編成にしています。

質問2 帰国生に対する英語の授業は、他の生徒と異なっていますか。

回答2 帰国生のみを対象とした英語の授業はありませんが、2クラスを3つの少人数クラスに分け、習熟度別の授業を行っています。また、2・3年次の選択科目において、テーマ・レベル・スキル別のネイティブスピーカーの教員による授業を複数開講しており、生徒の能力やニーズに合わせて学べるように工夫しています。

質問3 帰国生の場合、授業についていけるでしょうか。また円滑に学校生活を送れるでしょうか。

回答3 なかには最初国語などで苦労する生徒もいますが、それぞれ努力をし、成果をあげています。また、国際交流委員会が各教科に依頼して「質問の会」を行ったり、一人一人の相談の場であるアドバイザー・システムを設けたりして、学習面、生活面でのケアを行っています。帰国生も円滑に学校生活を送っています。帰国生入試で入学した生徒が学校生活について語った動画を本校ウェブサイトにて公開していますので、ご覧ください。